

付録3 処理結果電文等の詳細について

1. NACCS EDI電文

(1) 処理結果通知電文及び出力情報電文（照会結果）のフォーマット

単項目にエラーが発生した場合に処理結果コードを最大5個設定可能とするため、75バイトの固定長とする。なお、処理結果コードが設定されない場合は、半角スペースを設定する。

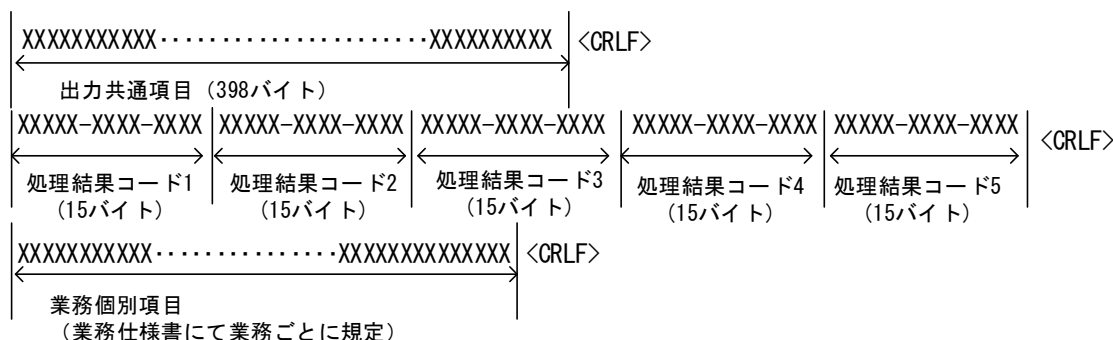
処理結果通知電文及び出力情報電文（照会結果）のフォーマットを、付図3-1に示す。

出力共通項目 (398バイト)	CL RF	処理結果 コード1 (15バイト)	処理結果 コード2 (15バイト)	処理結果 コード3 (15バイト)	処理結果 コード4 (15バイト)	処理結果 コード5 (15バイト)	CL RF	業務 個別 項目	CL RF
--------------------	----------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	----------	----------------	----------

付図3-1 処理結果通知電文及び出力情報電文（照会結果）のフォーマット

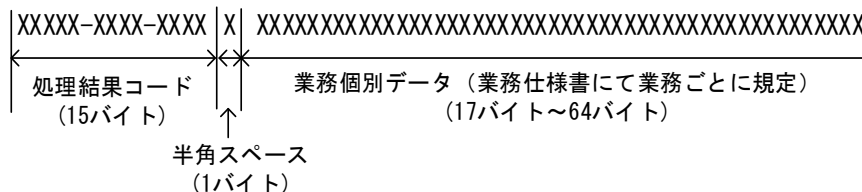
(注) 業務個別項目は、業務ごとに業務仕様書にて規定されている。

付図3-1をテキストエディター等のテキスト形式で見た場合、以下のようになる。



処理結果通知電文及び出力情報電文（照会結果）の場合、出力共通項目の Subject には、処理結果コード+半角スペース+業務個別データが設定される。

Subject の部分をテキストエディター等のテキスト形式で見た場合、以下のようになる。(Subject 部分を抜粋している。)



(注) 正常終了の場合で、注意喚起メッセージ（詳細は、「付録6 2. 処理結果コード体系」参照）が設定されていない場合、先頭の処理結果コード（処理結果コード1=00000-0000-0000）が設定される。正常終了の場合で、注意喚起メッセージが設定される場合は、2コード目の処理結果コード（処理結果コード2=WXXXX-XXXX-XXXX）が、設定される。

(2) 出力情報電文（照会結果を除く）のフォーマット

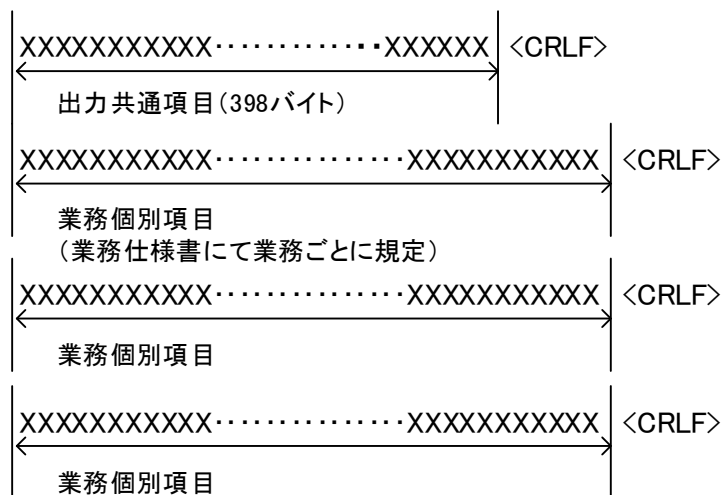
出力情報電文（照会結果を除く）のフォーマットを、付図 3-2 に示す。

出力共通項目 (398バイト)	CL RF	業務個別項目	CL RF	業務個別項目	CL RF	業務個別項目	CL RF
--------------------	----------	--------	----------	--------	----------	--------	----------

付図 3-2 出力情報電文（照会結果を除く）のフォーマット

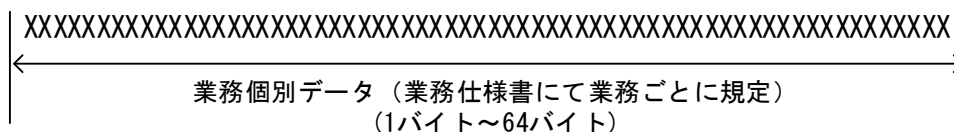
(注) 業務個別項目は、業務ごとに業務仕様書にて規定されている。

付図 3-2 をテキストエディター等のテキスト形式で見た場合、以下のようになる。



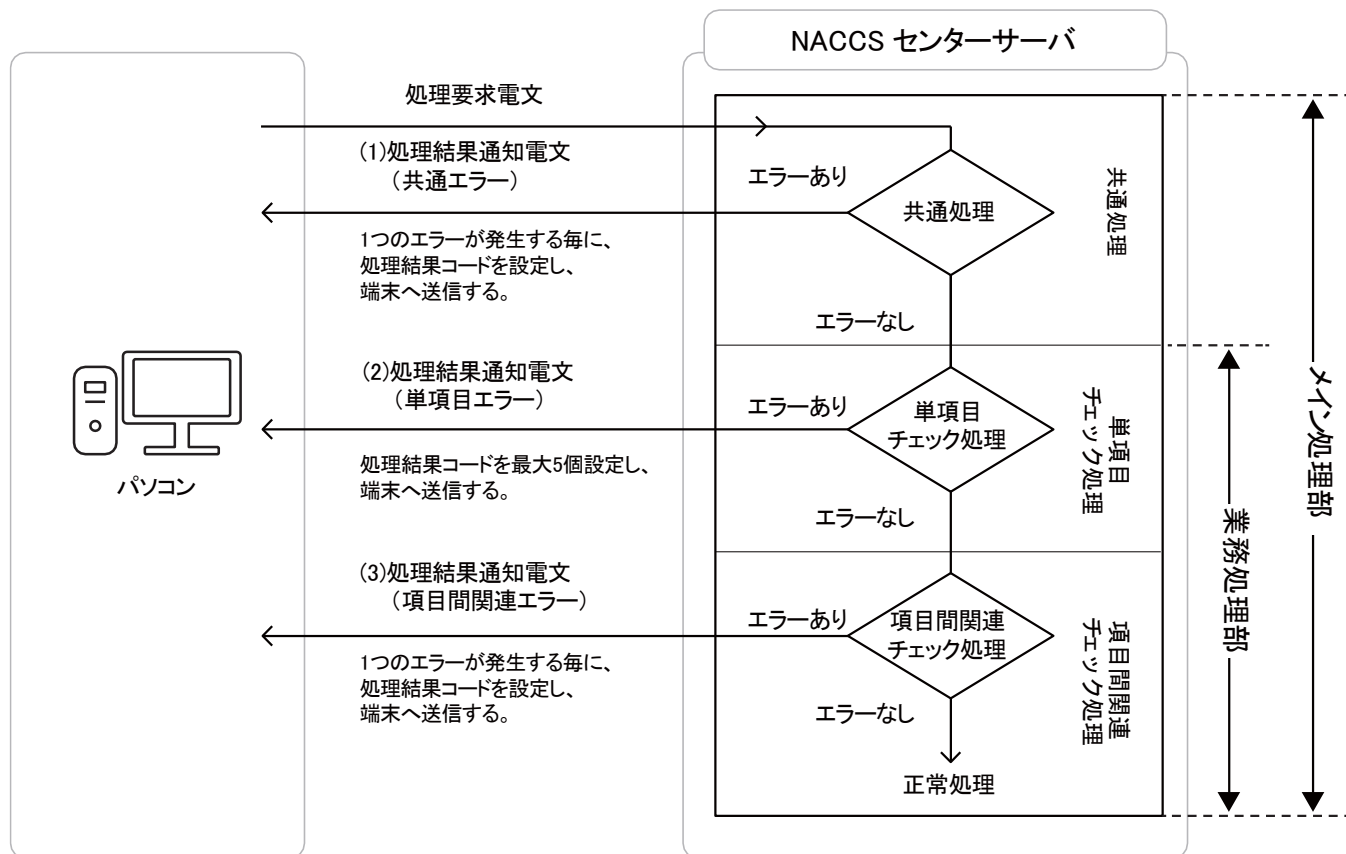
出力情報電文（照会結果を除く）の場合、出力共通項目の Subject には、業務個別データが設定される。

Subject の部分をテキストエディター等のテキスト形式で見た場合、以下のようになる。(Subject 部分を抜粋している。)



(3) エラー発生時における処理結果通知電文の出力形態について

NACCS センターサーバ内では、以下のようなチェック処理が行われており、各チェック段階においてエラーが発生した都度、処理結果通知電文が送信される。
 処理結果通知電文の基本出力パターンを、付図 3-3 に示す。



付図 3-3 処理結果通知電文の基本出力パターン

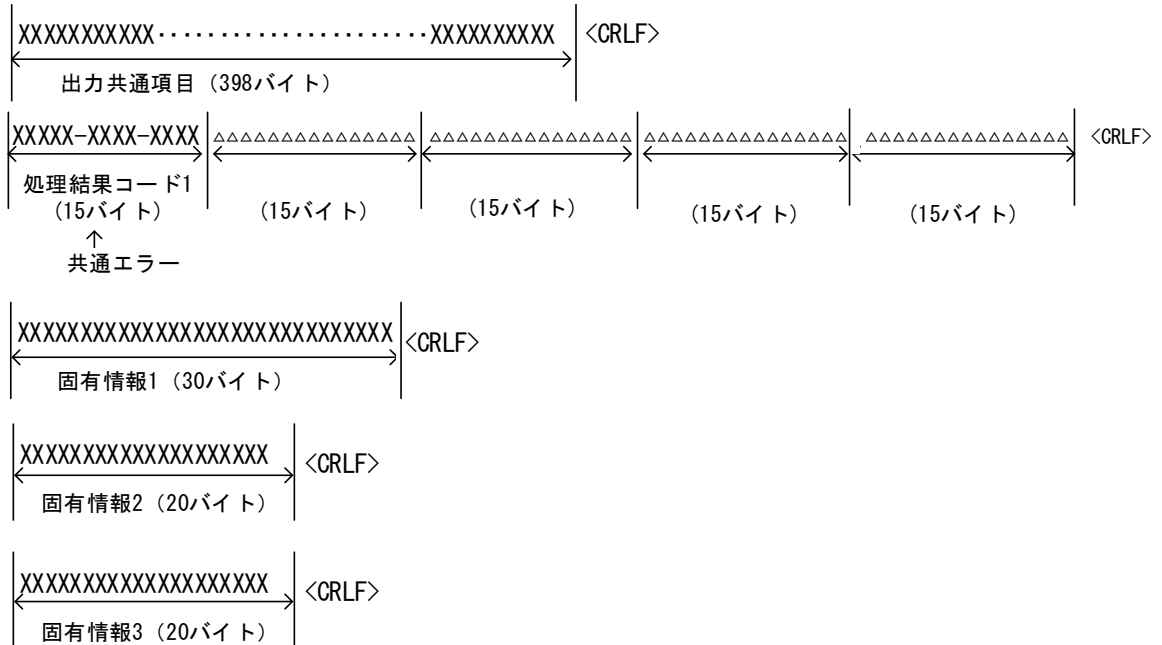
個々のチェック方法については、業務仕様によって異なる場合がある。

以下に、エラー電文の出力形態を示す。
 なお、エラー電文に設定される処理結果コードについては「付録 6 2. 処理結果コード体系」を参照のこと。

①処理結果通知電文（共通エラー）

共通処理でエラーとなった場合、処理結果コードを 1 個設定し、処理結果通知電文を出力する。

電文をテキストエディター等のテキスト形式で見た場合、以下のとおりになる。



(注) 固有情報 1～3 にはスペースを設定

2. EDIFACT電文

共通処理でエラーとなった場合は、EDIFACT メッセージの「APERAK」に処理結果コードを 1 個設定し、処理結果通知電文として送信する。

単項目エラー、または項目間関連エラーとなった場合は、EDIFACT 対象業務の EDIFACT メッセージの「CUSRES」に最大 5 個の処理結果コードを設定し、処理結果通知電文として送信する。

3. XML電文

共通処理でエラーとなった場合は、処理結果コードを 1 個設定し、処理結果通知電文として送信する。設定内容は、「付録 13 処理結果通知（共通エラー）マッピング表（XML）」を参照すること。

単項目エラー、または項目間関連エラーとなった場合は、最大 5 個の処理結果コードを設定し、処理結果通知電文として送信する。設定内容は、XML 対象業務の「処理結果通知マッピング表（XML）」を参照すること。

4. 継続処理となる業務について

継続処理の対象電文は、「付表 6-8 出力情報コード一覧」を参照すること。